

要旨

フィトリヤナ、アンディカ。2014。遠藤周作のスキャンダルの小説での勝呂の外部対立。ブラウイジャヤ大学日本語学科。

指導教官： (I) フィトリアナ・プスピタ・デウイ

(II) ナディア・インダ・シャルタンディ

キーワード： 外部対立、小説、品性、スキャンダル、人物

本研究では、隆起される問題は、外部対立である。本研究では、隆起される問題は、外部対立である。勝呂はスキャンダルの小説に外部対立の経験をされた。この小説は小説のためのパーティー文学賞に酔っていた女性に屈辱を与えた有名な小説家勝呂の物語である。その女性は彼を知っていると主張し、勝呂、浅ましい地域への訪問することがと言った。ここからこそ対立が出現される。この中で、外部対立が研究データのソースとして使用される。

この研究で説明した問題は、遠藤周作のスキャンダルの小説で勝呂の姿をどのように影響するか外部対立である。遠藤周作のスキャンダルの小説で勝呂の姿をどのように影響するか外部対立の説明することを目的とした。外部紛争の問題を分析するために、研究者は、人物、品性、プロットおよび外部紛争の理論の分析との記述方法を使用していました。

研究の結果が以下のとおりである。(1) 勝呂に発生した外部対立、とりわけ、石黒比奈と勝呂の外部対立、小針と夫妻成瀬と勝呂の外部対立である。(2) 石黒ひなと勝呂の競合勝呂は、著者として、彼の友人が疑い始めされたから絡んでである。小針と勝呂の対立、スキャンダルと不安な気分には広がっていく、一方で、勝呂と成瀬夫人の対立は勝呂の自分自身を知ることができないの原因となる。